

令和4年度 学校関係者評価 報告書

令和4年12月

いわき市医療センター看護専門学校

【目次】

1 学校関係者評価の概要と実施状況

- (1) 学校関係者評価の目的
- (2) 学校関係者評価委員
- (3) 学校関係者評価委員会の開催
- (4) 学校関係者評価方法

2 学校関係者評価の評価結果と内容

- (1) カテゴリーⅠ 学校経営
- (2) カテゴリーⅡ 教育課程・教育活動
- (3) カテゴリーⅢ 入学・卒業対策
- (4) カテゴリーⅣ 学生生活への支援
- (5) カテゴリーⅤ 管理運営・財政
- (6) カテゴリーⅥ 施設設備
- (7) カテゴリーⅦ 教職員の育成
- (8) カテゴリーⅧ 広報
- (9) カテゴリーⅨ 地域との連携

1 学校関係者評価の概要と実施状況

(1) 学校関係者評価の目的

- ① 実習指導者、同窓会等卒業生、看護師養成所教員経験者、母体病院職員等の学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その客観性・透明性を高める。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営や教育活動等の課題を明確にし継続的な改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「いわき市医療センター看護専門学校学校関係者評価委員会運営要綱」に則り実施する。

(2) 学校関係者評価委員

- ① 任期 令和4年7月22日から令和5年3月31日
- ② 委員名簿

氏名	区 分
高木 忍	学生指導協議会の委員
坂本 美智子	専門学校同窓会の会員
寺田 真紀子	専門学校の卒業生
泉 晶子	大学又は看護師養成所において教員としての勤務経験を有するもの
鈴木 隆宏	いわき市医療センター事務局の職員

(3) 学校関係者評価委員会の開催

- 第1回委員会 日時： 令和4年7月22日 13:30～15:50
場所： 本校2階会議室
内容： 委嘱状交付
学校関係者評価委員会の概要説明
令和3年度自己評価結果の説明
授業見学、施設案内
第2回委員会の概要説明
委員長、副委員長の選出
- 第2回委員会 日時： 令和4年9月27日 13:30～14:30
場所： 本校2階会議室
内容： 自己評価結果の評価結果
意見交換、提案等
まとめ

(4) 学校関係者評価方法

- ① 自己評価結果について、「適正」か「不適正」の評価をする。
- ② 評価事項、評価内容、その他学校運営等について改善の意見提案を行う。

2 学校関係者評価の評価結果と内容

※ 評価結果 の用語について

「自己評価の平均」とは

⇒ 看護専門学校が、カテゴリー別の評価事項について5段階で自己評価したものの平均の数値

- 5： できている
- 4： ややできている
- 3： 普通
- 2： ややできていない
- 1： できていない

「学校関係者評価の結果」とは

⇒ 看護専門学校の教職員による自己評価の結果が、「適正」なのか「不適正」なのかを学校関係者評価委員（5人）が評価した結果

(1) カテゴリーⅠ 学校経営

評価結果

自己評価の平均

4.6

学校関係者評価の結果

適正5人：不適正0人

評価できる点

- ・ 関連した会議が定期的に行われ、有効な議論が行われている。また保護者や学校関係者などの外部の評価を受けることで客観的な意見を経営に取り入れやすい状況にある。
- ・ 学校運営評価を平成25年度から市ホームページで公表しており継続的に説明責任を果たしていること、また、福島高専との連携協力協定の締結により、継続的な講師派遣を受けることが可能になるなど、能動的な取り組みも評価できる。
- ・ 全教員参加でSWOT分析、次年度の目標を策定しており、それを理解した上で、各教員も目標設定しており、教員各自の意識向上にもつながり、年々、成果が上がっていくものと考えている。

改善の意見提案

- ・ 福島高専との教育連携については、連携したことによる効果を継続して評価していく必要がある。（両校が得るメリットについて）

現状や改善の方策等

- ・ 本校では、この協定の枠組みの中で講師を継続して派遣いただけるメリットがある。福島高専において医療機関との協定が初めてであり、先進的な取り組みと評価を受けた。また、医療機関の協力が得やすくなったと聞いている。

(2) カテゴリーⅡ 教育課程・教育活動

評価結果

自己評価の平均

4.57

学校関係者評価の結果

適正5人：不適正0人

評価できる点

- ・ 実習評価にルーブリックを導入しており、学生自身の振り返り、目標設定、課題の抽出がしやすいものになっている。
- ・ 授業については研究授業も実施されており、また、見学した授業からも、教員から学生への一方的なものではなく、学生と共に進められていると感じた。
- ・ 新カリに向けて1年次から地域実習ということで実習施設の開拓や準備は大変だったと思う。すでに運用され学生の学びも大きいようで今後3年間でどのように育つか楽しみである。
- ・ 今年度もコロナ対応が迫られる中で、学内演習や実習が工夫されて実施されている。学校と実習施設の協力により制約もありつつも実習ができており、学生は大きな学びとなり学習環境が整えられている。
- ・ 学校を訪問した際、授業を見学したが、電子テキスト・電子黒板が導入されており、時代に即した授業が行われているほか、会議システム（Zoom）の各様やGoogleフォームによる授業評価（アンケート）を試行するなど、デジタル社会下での多様性にもしっかり対応されている。

改善の意見提案

- ・ 学生のコミュニケーション能力や一般的な社会人基礎力を高めるためのトレーニング（あいさつや御礼の述べ方、謝り方）もできると尚よいと考える。
IT、デジタル化またコロナ禍での実習時間短縮から、直接的なコミュニケーション能力不足が多少心配される。学生が自分の個性を活かし、よりよい対人関係が築け、臨床においてよりよい看護につながるように学校生活で学んでほしい。
- ・ 実習の調整は、実習先も数多くあり先生方のご苦労もあると思う。様々な施設等での受入れも、医療センターと看護専門学校の役割を関係者が理解してのことだと思うので、学生自身も実習を受け入れていただけることに対する感謝の気持ちを持つ必要があるのではないか。また実習に臨むときはオリエンテーション等で確認する必要があるのではないか。

現状や改善の方策等

- ・ 学校の中では、コミュニケーション技法のロールプレイやアサーションについての講義もあり、互いに尊重しながら自己表現できるコミュニケーションを学んでいる。学内で学んだことを実習で実践できるよう実習指導者と協力しながら今後も取り組んでいきたい。
- ・ 実習を行っていくにあたっては、全体オリエンテーションのほか、担当教員によるオリエンテーションを実施している。また、コロナ禍の中で様々な工夫や調整を行い、実習を受け入れてくれた実習先（施設）の状況説明を行っている。学生が素直な感謝の気持ちを持てるよう導いていきたい。

(3) カテゴリーⅢ 入学・卒業対策

評価結果

自己評価の平均

4.63

学校関係者評価の結果

適正5人：不適正0人

評価できる点

- ・ 国家試験合格率11年連続100%、進路決定率100%は高く評価される。入学時から早期に国家試験を意識した効果的な授業、指導をされている効果と考える。
- ・ 入学時から国家試験を意識した授業を行うほか、学生間交流の一環として3学年を混在させたグループ活動を行うなど、学生目線でひと工夫凝らした取組みも垣間見え、こうした取組みの積み重ねが、国家試験の合格率・進路決定率100%に繋がっているものと考ええる。
- ・ 受験や受験資料が整備され、個別にも相談対応がされており、学生が進路決定し易い環境である。

改善の意見提案

- ・ web開催した学校見学会の動画を確認したが、少子化により今後学生数の減少が見込まれるため、より多くの学生に選ばれるよう、魅力ある学校づくりや、学校のPRに積極的に取り組んでいく必要があると思う。その一つとして、リクルート（人集め）用の動画を作成してみてもどうか。予算を確保する必要はあるが、学校そのものを感覚的に知ってもらい、他校との違いを印象付けるには、映像で視覚的に訴えることが効果的であると考ええる。

現状や改善の方策等

- ・ 学生確保のための活動として、今年度より広報担当が内郷地区限定で、広報紙の回覧を開始する予定である。提案のあったリクルート用の動画についても、新カリキュラムに合った内容で更新する予定である。学校見学会に参加した学生からの意見を参考にすると、在校生の話を聞きたい意見が多い状況であるが、本校学生からは自分の映った動画を公開することには抵抗が大きく、難しい状況である。どのような動画が学生確保のために有効であるかを検討し、将来的に作成できるよう準備していきたい。

(4) カテゴリーⅣ 学生生活への支援

評価結果

自己評価の平均

4.36

学校関係者評価の結果

適正5人：不適正0人

評価できる点

- ・ コロナ禍において十分な感染対策が行われている。
- ・ 学年担当制、学生交流グループの支援、スクールカウンセラーなど、学生が相談しやすい環境、システムを整えている。
- ・ 学生全員を対象に個人面談を実施するほか、成績不振者等には随時面談を行い、個人の状況に合わせた適切な助言を行うなど、学生に寄り添う姿勢が見て取れる。

改善の意見提案

- ・ 先生方以外に先輩との交流もあると、学生自身が学生生活や進学、就職について考える一助になると思う。

現状や改善の方策等

- ・ 学生間交流グループでの3学年の縦割り班交流の機会が年に7回以上あり、その中で、学校生活や進学、就職等について情報共有する機会がある。

(5) カテゴリーV 管理運営・財政

評価結果

自己評価の平均

4.59

学校関係者評価の結果

適正5人：不適正0人

評価できる点

- ・ 学生と教職員の災害用備蓄が個別に準備されており、よい備えだと思った。
- ・ 学生自治会によるアンケート調査や、学校教員との意見交換の実施により、学生の意見が学校運営に十分反映されている。
- ・ 危機管理マニュアルの見直し改正が適宜行われている。

改善の意見提案

- ・ 危機管理マニュアルについて適宜見直しを行っているとのことだが、災害は多様化しているので、様々なリスクを想定し備えを万全にしてほしい。

現状や改善の方策等

- ・ 危機管理マニュアルは、地震、火災、放射線事故、風水害のほか、武力攻撃や不審者など10項目について対応マニュアルを作成している。多様化する危機に対応できるように備えたい。

(6) カテゴリーVI 施設設備

評価結果

自己評価の平均

4.1

学校関係者評価の結果

適正5人：不適正0人

評価できる点

- ・ 施設の老朽化に伴い修繕箇所が多くなっているが、優先順位が考慮され対応されている。体育館の修繕については、予想以上に早い対処であり、学生にとってもよかったと思う。また学校関係者評価委員会における会議内容も反映されていること実感できた。
- ・ パソコンシステム入替えやWi-fi工事等、IT化に合わせた整備ができています。

改善の意見提案

- ・ 若い世代は水回りの清潔感を重要視する傾向があるため、整備が必要だと感じた。体育館と校舎をつなぐ通路の排水関係もやや不衛生に感じた。屋根の洗浄や排水路の整備が必要ではないか。

現状や改善の方策等

- ・ 修繕については施設管理課で行っていることから至急現場を確認してもらった。次年度以降において屋根の改修（洗浄含む）等ができるよう、修繕個所の優先順位を加味し、予算要求をしていく。

(7) カテゴリーⅦ 教職員の育成

評価結果	自己評価の平均	4.54
	学校関係者評価の結果	適正 5 人：不適正 0 人

評価できる点
・ 新カリキュラム導入や日々の授業準備等複雑な中、看護研究への取り組みも積極的であり、教員の向上心を感じる。 ・ 毎年、分野を決めて研究授業を行い、意見交換の場があるのは素晴らしい。 ・ 教員が他の教員の授業を自由に参観し、意見交換を行える場が設けられている等、職場内においても、教職員のスキルアップの機会が設けられ、常に教職員の育成を意識した仕組み（制度）が確立されている。

改善の意見提案
(特になし)

現状や改善の方策等
(特になし)

(8) カテゴリーⅧ 広報

評価結果	自己評価の平均	4.48
	学校関係者評価の結果	適正 5 人：不適正 0 人

評価できる点
・ SNSを活用し、情報発信が効果的に行われている。 ・ ホームページやFacebookにおいて、適切に情報発信されている。卒業生や在校生からの評価も高く、評価内容からも学費のこと、国家試験合格率100%、学生間及び教員と学生間の良好な関係等が伝わってくる。 ・ 今年度の新たな取り組みとして広報紙の発行があり、努力がみられる。

改善の意見提案
・ Facebookの投稿数をはじめ、フォロワー数・リーチ数は前年度を上回り、取り組みの効果が表れている。いいね！を増やすには話題性も時には必要になるため、これまでスルーしてきた場面（日常）を投稿してみるなどトライしてみてはどうか。

現状や改善の方策等

- ・ 学生生活や授業風景など、学生へ投稿を依頼しているところである。今後も普通の学校生活等の投稿数を増やし情報発信をしていきたい。

(9) カテゴリーⅨ 地域との連携

評価結果

自己評価の平均

3.88

学校関係者評価の結果

適正 5 人：不適正 0 人

評価できる点

- ・ 今年度からの新カリキュラムにおいて1年生が体験した地区踏査では、地域との連携の重要性や看護職の役割を、身をもって体験できたと考える。
- ・ コロナ禍においてボランティア活動や地域活動は難しいところだが、可能な限り努力している。

改善の意見提案

- ・ コロナ以前に比べ、地域との連携活動の機会が減っているため、他項目に比べ自己評価が低くなっていると思われる。今年度からはボランティア活動が講義に組み込まれ地域とのつながりを学ぶ学習が入っていることから、これまで以上に連携、協力をしていってほしい。
- ・ コロナ禍で活動が制限され、学校祭もweb配信となるなど、地域との関わりを持つには正直厳しい状況にあると思われるが、総合学習・出前講座も含め、地域との交流の場は学校の取組みを紹介する絶好の機会でもありますので、感染対策を施したうえで、積極的に取り組まれることを期待する。

現状や改善の方策等

- ・ ボランティア情報を学生には随時案内をしており、学生も夏季休暇中や自分の時間を利用して積極的に取り組んでいる。コロナ禍ではあるが、感染状況をみながら今後も継続して取り組んでいく。
- ・ 地域との連携強化を図るため、病院や施設等で行う臨地実習を考慮しながら、感染対策を講じながら、できることを実施していきたい。